

学力調査等の分析について

(1) 令和6年度全国学力・学習状況調査（国語）

①集計結果（平均正答率（％））

分類		区分	本校	東京都 (公立)	全国 (公立)
		全体	63	70	67.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	59.3	67.9	64.4
		(2)情報の扱い方に関する事項	82.4	88.8	86.9
		(3)我が国の言語文化に関する事項	73.5	75.3	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	58.8	63.9	59.8
		B 書くこと	64.2	69.9	68.4
		C 読むこと	62.7	71.9	70.7
問題形式	選択式	67.5	73.0	69.9	
	短答式	54.4	63.1	59.7	
	記述式	51.5	63.7	64.6	

②分析

- ・全体の平均正答率は、都平均と比較すると－7ポイントだったものの、全国平均と比較すると－4.7ポイントであった。
- ・『学習指導要領の内容』で、都・全国平均共に5ポイント以上を下回った区分は、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」と「C 読むこと」であった。
- ・『問題形式』では、都・全国平均共に10ポイント以上を下回った区分は、「記述式」であった。

③今後の対応

- ・「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」の確実な定着を目指し、朝読書や音読指導などを通して、一つ一つの言葉に注目したり、意味調べなど、語彙を増やしたりするよう指導し、日常的な言語学習の工夫を行う。
- ・「C 読むこと」の力を伸ばすために、根拠となる叙述を基に、互いの見方・考え方を話し合ったり検討したりする場面を意図的に設定し、読みを深める面白さを味わわせていくようにする。
- ・タブレットPCとノートを併用し、自分の想いや考えを書く活動を多く設定することで、記述に慣れるようにしていく。

(2) 令和6年度全国学力・学習状況調査（算数）

①集計結果（平均正答率（％））

分類		区分	本校	東京都 (公立)	全国 (公立)
		全体	61	68	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算		66.2	70.6	66.0
	B 図形		61.8	70.8	66.3
	C 測定				
	C 変化と関係		47.1	59.3	51.7
	D データの活用		59.1	65.2	61.8
問題形式	選択式		73.9	79.2	75.3
	短答式		59.1	67.6	62.0
	記述式		47.5	55.1	51.0

②分析

- ・全体の平均正答率は、都平均と比較すると－7ポイントだったものの、全国平均と比較すると－2.4ポイントであった。
- ・『学習指導要領の領域』では、都平均と比較すると「A 数と計算」以外の全ての区分で5ポイント以上を下回ったが、全国平均と比較するとその差は5ポイント以内であった。
- ・『問題形式』では、都平均と比較すると全て5ポイント以上を下回ったが、全国平均と比較するとその差は5ポイント以内であった。

③今後の対応

- ・問題について、話し合ったり検討したりする場面を意図的に設定し、習得した知識及び技能を活用して思考することを通して、学習する楽しさを味わわせていくようにする。
- ・特に「B 図形」や「C 変化と関係」について、具体物やICT教材を使い視覚的に捉えさせ、学習内容の確実な定着を図る。
- ・習熟度に応じて、ICT教材や補充プリントを使い、前の学年の内容に戻り補充的指導を行う。

(3) 令和6年度全国学力・学習状況調査(児童質問紙)

①集計結果(「当てはまる」と回答した児童の割合/単位(%))

		本校	東京都 (公立)	全国 (公立)
国語	国語の授業は好きですか。	20.8	27.6	24.1
	国語の勉強は大切だと思いますか。	65.3	67.4	67.5
	国語の授業の内容はよく分かりますか。	35.6	44.4	39.2
算数	算数の授業は好きですか。	22.8	38.1	34.0
	算数の勉強は大切だと思いますか。	76.2	75.8	74.3
	算数の授業の内容はよく分かりますか。	35.6	51.3	44.9
生活	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	71.3	69.2	71.1
	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれぐらいありますか。	52.5	52.3	50.8

②分析

- ・国語、算数共に、「大切だと思いますか。」の質問では、都・全国とほぼ変わらず、特に算数では75ポイント以上で、都・全国よりも高い。
- ・国語、算数ともに、「好きですか。」「内容はよく分かりますか。」の質問では、いずれも都・全国より低い。
- ・生活に関わる質問では、いずれも都・全国平均より高く、学習して学んだことが自分の生活につながっていると実感できる工夫が必要であると考えられる。

③今後の対応

- ・校内研究を通し、学習意欲を高め、学習と自分の生活とのつながりを実感させる工夫を積み重ね、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための授業の実施及び改善を図る。
- ・各学期に実施しているOJT週間で、授業や学級経営の指導の工夫を互いに見合う取組を継続して実施することにより、自身の実践に生かし、授業改善に務めることができるようにする。

(4) 東京ベーシック・ドリル(算数)

①東京ベーシック・ドリル診断シートA(令和5・6年度1学期実施)(各学年平均正答数及び平均正答率)

	学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
平均正答数 (平均正答率)	R5	5.6(69.7%)	5.9(53.8%)	11.0(64.9%)	11.9(59.4%)	6.2(38.7%)
	R6	5.4(67.5%)	5.5(50.4%)	11.8(69.5%)	9.7(48.4%)	7.2(44.9%)

②平均正答率が50ポイント未満の問題(※グレー網掛けは、2年間継続しているもの)

第2学年	R5	1(いくつといくつ)、5(あわせていくつ)ちがいはいくつ
	R6	1(いくつといくつ)、5(あわせていくつ、ちがいはいくつ)、7(なんじなんぶん)
第3学年	R5	6(テープ図)、7(単位変換)、8(時間)、10(立体の名称、辺)、11(表及びグラフの作成)
	R6	1(1000より大きい数)、6(テープ図)、7(単位変換)、11(表及びグラフの作成)
第4学年	R5	4(3桁×2桁)、12(図を使って考えよう)、16(円と三角形の作図)、17(表やグラフの作成)
	R6	4(3桁×2桁)、8(小数のひき算)、12(図を使って考えよう)、14(時刻と時間)、16(円と三角形の作図)、17(表やグラフの作成)
第5学年	R5	2(四捨五入)、8(小数のかけ算)、9(小数のわり算)、14(複合図形の面積)、17(立体)、19(折れ線グラフ)、20(倍)
	R6	2(四捨五入)、3(あまりのあるわり算)、8(小数のかけ算)、9(小数のわり算)、13(関係式)、14(複合図形の面積)、15(角度)、16(ひし形の作図)、17(立体)、19(折れ線グラフ)、20(倍)
第6学年	R5	1(偶数と奇数)、6(分数の引き算)、7(百分率)、8(関係式)、9(三角形・ひし形の面積)、10(複合図形の体積)、11(平均)、12(人口密度)、13(速さ)、16(円グラフと割合)
	R6	1(偶数と奇数)、6(分数の引き算)、7(百分率)、8(関係式)、9(三角形・ひし形の面積)、10(複合図形の体積)、11(平均)、12(人口密度)、13(速さ)、16(円グラフと割合)

③分析

- ・令和6年度、平均正答率が60%を超えている学年は、第2・4学年である。
- ・令和6年度、平均正答率が50%の学年は、第3学年である。
- ・令和6年度、平均正答率が50%未満の学年は、第5・6学年である。
- ・平均正答率が50%に満たなかった問題を見ると、2年間継続しているものが複数ある。

④今後の対応

- ・平均正答率が50%に満たなかった問題に重点を置き、朝学習等を利用して繰り返し指導していく。
- ・習熟度に応じて前の学年の内容に戻り補充的指導を行い、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けるように指導する。